

京都市基本計画審議会 第5回すこやか部会  
摘 録

日 時：平成22年3月26日（金）18:00～20:30

会 場：総合教育センター1階第1研修室

出席者：

|            |            |                            |
|------------|------------|----------------------------|
| あらまき<br>荒牧 | あつこ<br>敦子  | 社団法人認知症の人と家族の会京都府支部代表      |
| おおまえ<br>大前 | えみ<br>絵美   | 公募委員                       |
| かとう<br>加藤  | ひろし<br>博史  | 龍谷大学短期大学部社会福祉科教授           |
| しげた<br>繁田  | まさこ<br>正子  | 京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学講師 |
| すがはら<br>菅原 | さとこ<br>子   | 社団法人京都市私立幼稚園協会前副会長         |
| たけした<br>竹下 | よしき<br>義樹  | 社団法人京都市身体障害者団体連合会副会長，弁護士   |
| たなか<br>田中  | せいじ<br>誠二  | 学校法人大和学園学園長                |
| ながや<br>長屋  | ひろひさ<br>博久 | 京都市PTA連絡協議会前副会長            |
| にしおか<br>西岡 | しょうこ<br>正子 | 佛教大学四条センター所長・教育学部教育学科教授    |
| にしわき<br>西脇 | えつこ<br>悦子  | 京都市地域女性連合会会長               |
| もとむら<br>本村 | てつろう<br>哲朗 | 公募委員                       |

○…副部会長

以上11名  
(50音順，敬称略)

## 1 開会

## 2 議事

- (1) 基本計画第1次案の分野別方針の検討（学校教育，生涯学習，子育て支援，保健医療，障害者福祉，高齢者福祉，地域福祉）

### 西岡副部長

7つの政策分野について議論し，意見を伺う。3つのセクションに分けて行い，それぞれ18分が目安となっている。最後の12分で，すこやか部会全体のまとめとしてキーワードを確認する。

### 事務局（栗原指導部長，藤田生涯学習部長）から以下の資料を説明

- ・基本計画分野別方針第1次案（学校教育，生涯学習）

### 繁田委員

たばこ対策の普及を。すでに100%子どもたちにプラスになることが明確になっている方法である。それがぼやけた形で入っているのは京都らしくない。科学的な大学のまぢらしくない。「食育・生き方探究」のところを「健康教育」という言葉にするなり，はっきり「喫煙防止教育など」と書く方がいかにも先進的だと思われるのではないか。

### 加藤委員

「生きる力」というのはタフであるというイメージが非常に強い。思いやる力とか，やさしさの力，心の深さを育てていくことにも触れて頂くと有難い。

### 大前委員

「子どもの権利憲章」の様な形で家庭の役割を文書にした方が家庭の中の母親も自覚ができると思う。家庭でどのように子どもを育てるのが当たり前のように実はわかっていない。

2つ目は，「現状・課題」に「体験活動やボランティア活動で生きる力を養う」とあるが，日本の文化であるお茶とかお花などにぜひ取り組んでほしい。

### 西岡副部長

「政策の目標」に「京都ならではの伝統文化教育」があるが，これとは別ということか。

## 大前委員

お茶は日本の文化だと思っている。お茶の基本の「和敬清寂」の心など、子どもたちもその心を知ることができたら、と思うので提案した。

## 菅原委員

校種間連携ということで幼児教育も書いてあるが、基本は幼児教育だと思う。「確かな学力」が一番ではなく、「豊かな心」「健やかな体」を先ず育むところから始めるべき。

「生きる力」には前へ前へ行くタフな力だけでなく、自らを表現できる力が必要である。

## 西岡副部長

表現力やコミュニケーション能力も最近よくいわれている。

「市民と行政の役割分担と共汗」について伺いたい。西協委員から意見あるか。

## 西協委員

市民一人一人が気づいたことを発信する、そして自分も実践する。子どもたちに大人の姿を見せることが大切だ。

## 西岡副部長

長屋委員どうか。

## 長屋委員

各種団体は、行政と市民との間で接着剤的な役割なのだろう。

## 西岡副部長

関わりを深めたり、広げたり、進める役割ということだ。その他、登下校の見守りや学校教育に市民や団体も加わっているが、そういうことも入ってくる。学校、幼稚園の役割はどうか。

## 菅原委員

地域との関わりが基本になったうえで、保幼小中連携である。

## 西岡副部長

家庭ではどうか。

## 大前委員

例えば家庭科は学校でも教えてもらい、家でも学ぶことができる。母親と一緒に料理

をつくるなど。

#### 西岡副部長

しつげにプラスして、生活の中での学びをきちんと教えていくという役割か。

#### 繁田委員

「子どもの自尊感情や規範意識」のところは家庭の持つ力が大事だ。最も大事な、心を安心させるような場を提供することが家庭の大事な役割だ。団体は、みんなの子どもである、みんなの若者であるという気持ちを持たせることが役割だろう。

#### 本村委員

京都の伝統的な産業は後継者が少なくなってきた大変だ。学校との連携で興味をもって、好きになっていくという感じの文言が入ればと思う。

#### 西岡副部長

社会の実態から学ぶことは大事だ。行政から意見あるか。

#### 事務局（栗原指導部長）

それぞれが役割分担を明確にして、子どもたちの教育のために関わっていききたいということで取り組んできている。同時に、批判しあうことではなく、また、不足を指摘しあうことではなく、足りないところを補いあうような関係をつくっていききたい。「自分には関係ない」という人は子育てに関してはいない、みんなが当事者だという意識を、多くの方々に感じていただきたい。役割分担の明確化と同時に、役割が重なりあってもいいからお互いに関わりを深めていくという関係を学校教育においてもつくりあげていきたい。

#### 西岡副部長

「共汗の方向性」にそれを入れたい。次に「生涯学習」に移る。

#### 田中委員

「10年後の姿」に、学びの循環を生涯学習を通じて発信していこうと書かれている。「基本方針」にも、生涯を通じて学びを継続し、自分自身を磨き高めていくという、生涯学習のダイナミックなところをもう少し一歩踏み込んで表現されたい。例えば「基本方針」の3行目「市民誰もが学ぶ喜びを実感し」は、生涯を通じた学び、或いは学ぶ実感をもってほしい。そうすれば、もっと京都市の生涯学習に対する独自性が出る。

## 西岡副部長

タイトルの「大人が学び子どもが育つまち」の表現も含め、ダイナミックな生涯にわたるライフステージごとの重要な学びの趣旨が入るような「基本方針」にして頂きたい。

## 繁田委員

「政策指標」で、例えば、京まなびネットなどの登録事業数が挙げられているが、他のところも全部含めてアウトカムにすべき。

## 西岡副部長

「みんなで目指す10年後の姿」の「手軽に」という表現を変えて頂きたい。また、学びの成果はもっとダイナミックなもので、「「学び」の成果がボランティア活動等に」は、ワークの成果とライフにおける成果、「仕事や社会活動に生かされるなど」として頂きたい。

「市民と行政の役割分担と共汗」で、行政の役割は情報発信、支援、連携への支援などがある。民間とパートナーシップを組むとなっているので、行政も学習機会の創出をやって頂きたい。

大学、学校などは、たくさん機会提供をしていると思うが、加藤委員どうか。

## 加藤委員

大学の社会貢献と関連して、京都は大学のまちなので、しっかり書いて頂いている。

「10年後の姿」の3行目の「関わらず」という字が間違っている。それから「主人公」よりも「主体」の方がいい。

## 西岡副部長

「市民と行政の役割分担と共汗」の図には、大学、学校、NPO、企業も生涯学習の場を提供し貢献しているので、入れていく必要がある。

## 長屋委員

私は子どもが幼稚園に行ってPTAの役員になったときに初めて、大人として学ばないといけないことに気づいた。そういう環境にない人は、子どもは学ぶものだけれど、大人は学ぶものという認識をしていないのではないか。そういうことを大人に伝えていかないとけない。

## 西岡副部長

最近では大学でも生涯学習概論が必修になっている。大学の役割として学びの重要性というか、情報を提供することも入ってくるだろう。

## 大前委員

「大人が学び子どもが育つまち」は「大人も子どもも学び育つまち」という方がいい。

## 繁田委員

「学ぶ喜び」という言葉が右側のページにはない。キーワードとして「喜び」や「楽しみ」を入れていただきたい。そうすればアウトカムもついてくるのではないかな。

## 長屋委員

企業もCSRなどがあるので、企業としても従業員の生涯学習を促進する働きがあればいい。

## 西岡副部長

生涯学習に関しては、企業、NPO、大学、その他いろいろな団体が非常に重要な学びの提供の場となる。

## 竹下委員

生涯学習を通じたまちづくり、地域づくりが大事だ。地域力とか地域の居場所づくりなどは、生涯学習と一体となっていないとダメだ。

障害者の立場から言うと、学校では総合教育、障害児教育というが、生涯学習では意識してもらえない。生涯を通じて学ぶことが、自己実現に重要であるのは障害のある人も同じ。障害のある人への配慮を必ず加えて頂きたい。

## 西岡副部長

今の意見が強調できるようであれば反映させて頂きたい。行政からどうか。

## 事務局（藤田生涯学習部長）

おっしゃるとおりの内容と思う。子どもを育てることに関わっていない大人はいない。社会のすべての人が地域づくりのために、そして子どもたちを育むために、また地域の一員としての責任と役割をもって学び続ける必要がある。学び続けることによって地域も前進していく。そういう大きな構図を生涯学習という取組の中でつくりあげていきたい。

そこで行政は、情報発信、ネットワークづくりなど様々な調整機能を果たし、また、学びの場を創出していく必要があると改めて感じた。

## 西脇委員

自分の力でもきっと地域はよくなる、という思いの力が重なったときに地域はよくなる。それはお互いに学習しないとわからない。女性連合会では、学習して初めて実践の方向性

も出るし、また活動も実践できるということを発信している。その中で楽しいことも出てくる。継続して学習することによって市民の思いも行動も変わるという言葉が入ればいい。

#### 西岡副部長

学習の力の大きさをもう少し強調できるようにということだ。

次に、「子育て支援」と「保健医療」について議論する。

#### 事務局（久保子育て支援部長，高木保健衛生推進室部長）から以下の資料を説明

- ・基本計画分野別方針第1次案（子育て支援，保健医療）

#### 加藤委員

中座するので，各分野まとめていう。

子育て支援で，「発達障害（言語発達障害・自閉症等）」となっているが，一般に発達障害というのはアスペルガーとADHDと学習障害等を指す。

保健医療で，「生活習慣病にかからず，かかったとしても早期に治療し，いつまでも笑顔で健康に」はそのとおりだが，慢性病の人がたくさんいる。病とともに生きていくことを以前話した。病気になったら悪い，病気を持って生きているのは肩身が狭い，という状況は具合が悪い。

障害者福祉で，「インクルーシブ」の説明が「排除されない」と書いてあるが，すべての人を包み込む，「すべての人が輝く」くらいの説明の方がよい。

#### 大前委員

子育て支援の「政策の目標」の3つ目で，母親と子どものことが書いてあるが，父親も入れることが重要だ。

#### 西岡副部長

今は病院でも助産院でも父親の教育を一緒に行っている。

#### 繁田委員

「現状・課題」の3つ目に母親の問題が挙がり，女が変わったかのように受け取れるが，男性が競争社会に晒されて家庭に戻れないことや，格差の問題の方が母親の不安をかき立てているものとして大きい。そこをきちんと書いて，「親を取り巻く状況」としてほしい。

#### 西岡副部長

なにかちょっと古いな，最近とは思えない表現だなという感じがした。改めて頂きたい。

## 菅原委員

祖父母の存在についても入れるべき。

## 西岡副部長

市民、地域ぐるみでということで、もちろん祖父母も地域の人たちも入る。もう少し強調するようにしたい。

「市民と行政の役割分担と共汗」についてどうか。

## 繁田委員

子育て支援では、「働き方の見直しや男性の子育てへの参加促進」が今一つ。行政が病児保育を進めるとか、企業の面で男性の育児休業取得を進めて、子育ては企業も一緒にやる、というあたりが見えない文章だ。病児保育はこれぐらいという目標があってもいい。

## 西岡副部長

企業の役割に子育てとワーク・ライフ・バランスを入れてもいい。

## 田中委員

京都市で女性の社会参画を支援する仕組みをつくっている企業を表彰する取組をしていたのではないかな。

## 西脇委員

男女共同参画で取り組んでいる。

## 田中委員

「政策指標」として、女性の社会参画を支援する企業数が例えば今 100 あるとしたら目標値を 150 にするというのがあると具体的ではないかな。

## 西岡副部長

その方がわかりやすい。そういう促進は行政、企業、団体の役割だろう。促進のための活動をすることは重要だ。

## 西脇委員

表彰の対象は申請制である。たくさん申請を頂けるよう、いかに女性が生涯働いていけるような仕組みができる企業を応援するかだ。

## 西岡副部長

「保健医療」に移る。

## 大前委員

「政策の目標」の1つ目の「生活習慣病にかからず、かかったとしても早期に治療し」というのは、「生活習慣病を改善でき」という表現の方がよい。

## 西岡副部長

見直しを願う。WHOの「健康」の定義も、病気があってもそれとうまく付き合っ前向きに生きていくことだ。

## 繁田委員

「目指す10年後の姿」の「すべての市民が」の文章は、すべて市民の役割になっているが、受動喫煙防止法とか、運動しやすいまちにするとか、いろいろな運動のできるところをつくるとか、そういう環境を整えることが生活習慣病を治す一番のポイント。これだと個人で頑張って健康づくりを心がけましょうという文章になってしまっている。そういう環境を京都市はつくっていくという言葉を入れるべきだ。

3つ目の「食や住まいの衛生が確保されている」という「衛生」という言葉は非常に古風だ。「食や住まいの衛生が確保されている」ことの先についての記述が本来あるべきだ。

非喫煙者の割合が女性の67.9%という現況値は、どこから引用したのか。京都の女性20歳から59歳までは喫煙者がたった17%のはずで、非喫煙者は95%以上が目標だろう。現況値自体がおかしいのではないかな。

## 西岡副部長

下の図の行政の役割には環境整備をきちんと入れて頂きたい。

## 本村委員

「誰もが生涯にわたっていきいき」とは、病気になる人もいて、病と付き合いながら生きていかないといけないので、不自然だ。

## 荒牧委員

「少子高齢化」と「高齢化」が混在しているが、何か根拠があるのか。違和感がある。

## 事務局（高木保健衛生推進室部長）

特に意図的に使い分けているわけではないので、統一する。

## 菅原委員

「政策指標」の4番の、年間自殺者数が316人から目標値が240人以下というこの指標は、どこからどういうふうに割り出されたものか。

## 事務局（高木保健衛生推進室部長）

平成10年頃の急増期前の数字が240人であり、京都市の自殺総合対策推進計画の目標値と合わせてひとつの目安と考えた。

## 菅原委員

これは大人も子どももすべて含めた数字か。

## 事務局（高木保健衛生推進室部長）

そうだ。

## 西岡副部長

自殺者数の目標がゼロではなく人数なのは違和感がある。役割分担のところはいかがか。

## 繁田委員

「どっちにしても一緒だろう。ちょっと動いたぐらいではどうにもならないよ。」という意識が市民に蔓延している。市民の役割には、健康はつくれるという自信を持ってもらう、自分の力できちんとメタボも変えていける、やる気を持ってもらうことが必要だ。

医療機関としては、一人一人の市民の力を信じてサポートすることが、日本の医療機関は今までできてなかったように思うので、エンパワーメントの視点を入れてほしい。

## 西岡副部長

役割のところを押さえて頂きたい。市民は正しい情報を得て、自信を持って主体的に取り組むということだ。

## 繁田委員

努力すればよくなるというエビデンスが市民に伝わっていない。食も含めて、食事内容を変えたらこんなに健康になる、歩き出したらこんなに認知症も予防できる、など、伝わっていない。

## 西岡副部長

保健医療サービスの機関には、正しい情報の提供をお願いしたい。

## 竹下委員

高齢社会と高齢化社会の「化」は使い分けを。

自殺の問題で目標値を 240 人にするのは怠慢だ。自殺予防の先進事例を見ても、この数字についてもう少し前向きな議論がいる。しかも京都市の自殺対策は何もできていない。自殺の要因が多様化しているだけに総合的な取組が必要だが、独自の予算をつけようとしていない。自殺対策を本当に基本計画に入れるのなら、保健の問題ではない。もっと総合的・横断的に取り組む必要がある。

## 事務局（高木保健衛生推進室部長）

自殺の問題は総合行政で取り組まなければならないと認識しており、3月に計画を出す。国・府・市すべての機関を挙げ、企業も取り組むよう、来年度約 10 倍の予算を考えている。

## 田中委員

生活習慣病対策について、具体的な情報提供や啓発が足りない。キーワードとして、運動、休養、栄養、喫煙などを散りばめるといい。

## 繁田委員

生活習慣病を中心に書かれたから何となく明るいといえは明るくなっているが、治らない病気やがんの問題、死の問題も話題になっている。医療はホスピスも担っているのに、そのあたりがまったく書かれていないのは、お寺の多い京都らしからぬ部分もある。老いや死についてきちんとした認識を持った医療を行うことは、医療機関や医師も看護師もみな考えなければいけない。どこかに書くべきである。

## 西岡副部長

キャッチフレーズはポジティブだが、現実には即した形で修正をかけて頂きたい。次に、「障害者福祉」、「高齢者福祉」、「地域福祉」について議論する。

事務局（瀧本障害福祉担当部長、壁長寿社会部長、末次生活福祉部長）から以下の資料を説明  
・基本計画第 1 次案分野別方針（障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉）

## 繁田委員

政策指標にアウトプットが書いてあっていいが、数値について指摘する。

障害者雇用率は、この 5 年で 1.63% から 1.77% まで上がっているのに、10 年後の目標値が 2.0% というのは本当にやる気が出てくる数字なのか。日中活動の場の利用者数も 10 年後に 1 割しか増えていないというのは目標としてあり得るのか。

高齢者福祉でも、認知症の方が爆発的に増えることは保健医療の統計上明らか。入所系

介護保健施設定員数は 26 年度の数字を書かれているから 32 年度はもっと違う数字かもしれないが、13,598 人にちょっと増えたぐらいで本当にやっていけるのか。介護職場で就労を希望する人が 2 倍になったとしても施設が増えてなかったら働けない。矛盾を感じる。

地域福祉の方は、市民共汗サポーターが 10 万人と、こちらは 50 倍に突然増えるという目標だ。もうちょっと考えてほしい。

#### 事務局（壁長寿社会部長）

高齢者福祉の入所系介護保健施設定員数は、平成 26 年目標の長寿すこやかプランに基づいている。ニーズを把握したうえでの数値ということで理解いただきたい。

#### 事務局（瀧本障害福祉担当部長）

府内の障害者雇用率の目標値 2.0%は、京都府の障害者就労支援プランとの整合を図った。

#### 繁田委員

平成 32 年が 2.0%なのか。

#### 事務局（瀧本障害福祉担当部長）

目標値が明記されていないプランのため、数字については改めて検討する。日中活動の場の利用者数は精査する。

#### 西岡副部長

一般の市民の方も「この程度かな。」と思われるのではないかな。

#### 繁田委員

「10 年後の姿」にはすごくいいことが書いてある。「障害のある人の地域における社会参加を一層進め」とか、そうしたらこんな数字ではないのではないかな。その格差がある。障害を持っている人が活躍できるような仕事が増えているはずなのに、偏見等がものすごくあると感じる。その偏見の部分がなくなればもっと活躍してもらえる仕事も増えるので、障害者雇用率の目標値は少しでも高く挙げて頂きたい。

#### 西岡副部長

数字はもう少し精査してもらおう。「役割分担と共汗」には、理解とか交流ということを市民・企業・団体すべてのところに入れて頂きたい。

#### 荒牧委員

広島は認知症について、若年対策を別枠で考えている。若年の認知症の方が増えている

ので、どこにも文言が入らないと、狭間になってどこからも救い上げられない人たちが出てくると懸念する。

## 西岡副部長

前回出た意見をもう少し汲み取って頂きたい。「違いを共に認めあう社会」についても議論が進んだと思うが、もう少しその精神が表れているようなものに。

## 田中委員

障害者福祉の「基本方針」は、2センテンスで構成された方が読みやすい。

冒頭の「法制度が大きく変化する中で」というくだりが少し引っかかる。法律ができたので何かしようというのは、京都らしくない。もう少し高尚な概念があって、或いはユニバーサルデザインの広がりや、普及推進の世界的な広がりの中でとか、概念哲学的なものも含めて障害者福祉の考え方を説くような文章表現があるといい。

## 大前委員

「障害のある人もない人も、すべての人が共に支えあう」という部分だが、疑問がある。お互いの存在を認めあってはじめて支えあうことができると思う。「共に認め支えあう」という方が心に響く。

「障害や障害のある人に対する正しい理解を深める啓発や幼児期からの取組が重要」は、もうひとつよくわからない。どのような啓発、幼児期からの取組なのか疑問を感じた。

## 西岡副部長

文章が長く、一つ一つがわかりにくい。もう少しわかりやすく書いて頂きたい。

「高齢者福祉」に移る。

「すべての市民が敬う心を持ち」とか、「すべて」をあまりに強調し過ぎているのではないか。その下も「高齢者が夢や希望を持って生涯現役で活躍できる社会をつくるとともに」となっている。これは今否定されてきているアクティブ・セオリーの考え方で、みんなが生涯現役という状況は高齢者個々人が満足しない。ディスエンゲージメント・セオリーというものもあり、高齢者が一つ一つ責任や役割をおろしていつて引退していくというもの。パーソナリティに応じた選択ができるのが高齢者の幸せとも考えられている。現役で活躍できることも可能な社会とするなどやわらげる必要がある。

「政策指標」も、趣味・学習活動に取り組む高齢者の割合が 90%になったらよいというわけではない。この指標をもう少し考える必要がある。

## 菅原委員

「誰もが住み慣れた地域で社会との関係を保ちつつ豊かな生活が続けられるように」、そ

のためには住宅を提供する，こういったことは無理ではないか。実際を見て，現実味を帯びた政策をとってほしい。

## 西岡副部長

「共汗の方向性」について，西脇委員どうか。

## 西脇委員

「高齢者」以外にもう少しいい言葉がないか。

市民みんながサポーターのつもりでいる。市民一人一人がどのようにしていけば健康で，自分も地域の中で役に立っていけるかなという思いを喚起できるような言葉を入れたらどうか。

## 荒牧委員

「介護予防重視型システム」とは，介護保険制度にのっとる介護予防という意味なのか，日常的な予防ということなのか，そのへんの仕分けが難しい。

その下に「住み慣れた地域での高齢者の生活を 24 時間・365 日切れ目なく支えられるよう地域密着型サービスの整備を着実に進める」は施設か。自分の家で住み続けられるためのサービスとして，夜間の訪問ヘルパーなどを付け加えてほしい。

## 田中委員

政策の一貫性の視点で，「現状・課題」と「政策の目標」が必ずしも一致していない箇所がある。もう少しわかりやすくされたい。とりわけ介護給付費の増大や介護保険料の上昇等が危惧されていて，また介護保険制度は開始から 10 年を迎え，高齢化の進展をはるかに上回る勢いでサービスを必要としているのだが，今後それはどうなっていくのかとか，それに対する課題の解決を示唆するような 10 年後の姿が連動していかないとわかりづらい。

## 事務局（壁長寿社会部長）

書き切れていない部分について工夫したい。

団塊の世代の高齢化に伴う保険料や給付費の増大、それを少しでもセーブするための介護予防の普及といった視点が読み取れるよう工夫したい。

## 西岡副部長

共汗の方向性やそれぞれの役割等で何かあるか。

## 繁田委員

この会でいろいろな団体の方と情報交換し見えてきたものが多い。共汗の中で，ステレ

オタイプな高齢化社会のイメージではない、新しいパラダイム・価値観を、創造・提案していくのがよい。もっと誰かが幸せに思っているということが分かる指標がないのか。そういう新しい価値観を創造していくのが市民と行政両方の役目かもしれない。

#### 西岡副部長

10年後の姿であるから、長い展望を持って考えるべきということ。

#### 繁田委員

少しずつ責任をおろしていくことの素晴らしさ、人生の冬の価値観みたいなものを創造しないと、明るく夢にあふれた希望だけでは絶対につまずくと思う。

#### 荒牧委員

認知症高齢者あんしんサポーター登録者数は、現在 15,581 人になっているのを 5 万人にするのは大きい数字ではないと思っており、達成できるだろう。先般、南区役所の職員全員に対してサポーター養成講座を行った。先ず行政で働く方がこれらの講座などを受けたあと、市民に啓発すると有効ではないか。あらゆる役職の方が同じ目線で対応できていくことが必要である。

#### 西岡副部長

行政の役割のところにも入れて頂きたい。

「地域福祉」に移る。

#### 大前委員

「自治・自立・協働により地域の福祉力をつむぎ、高める」の「つむぎ」というのがよくわからない。

#### 事務局（末次生活福祉部長）

単に積み重ねるのではなく、折り重なりながらお互いに協力、協働する、練っていくというイメージを含んでいる。

#### 大前委員

今説明して頂いて非常にわかりやすいと思った。その言葉を入れた方がいい。

#### 西脇委員

みんなでつくりあげていくということで、「つむぐ」という言葉にはあまり抵抗を感じない。いい言葉だと思う。

## 西岡副部長

「福祉力をつむぐ」という表現がちょっとどうかなと思う。また別のところで上手に「つむぐ」を入れてもいい。検討頂きたい。

「共汗の方向性」は、共につながりを強化しながらという方向を一工夫して頂きたい。

## 田中委員

福祉関係の分野で、「政策指標」がすべて定量化した指標になっているが、生活の質を問う政策分野でもあるので定性的な指標もあってもいい。特に地域福祉はそういった福祉の実感があるまちであるかどうかという満足度指標的なものも指標として盛り込まれてもいい。

## 繁田委員

担い手が高齢化して地域の一部の人に負担がかかって、いくつも役目を持っている人がいてあとは誰もしないし後継者もないという問題が非常に深刻なのに、それへの対応策が書かれず「これまでと同様に協働の関係を築き」とあるが違和感がある。「各団体が協働の関係を築くのはもちろんだが、新しい展開も必要。」というのが、私たちが話し合ってきたことではないか。

## 西岡副部長

日本語としても「展開されてきた団体が」というのはあまり言わないと思う。

今月中、来週の水曜日までには追加の意見等を頂きたい。

次の議題は、第5回までのすこやか部会全体を通じて、重要なキーワードを確認することである。

## 事務局（大田京都創生推進部長）

基本計画が冊子になったときに、今まで議論頂いた7分野は「すこやか分野」という形で大きくまとめる章立てみたいなものの一章になるかと思っている。議論頂きたいキーワードは、その章の扉に、この7分野に共通のものという形で掲げたい。また、すこやか部会として重視したキーワードを部会長、副部会長を通じて融合委員会に対して提案し、未来像や重点戦略の検討にも反映していく。

## 西岡副部長

「違いが共にある社会」も書いて頂きたい。

## 竹下委員

「市民が主人公」といつもいうが、高齢者も障害者も子どもも全部に共通する問題とし

て、その人たちを主人公たらしめる条件をどうつくるかという視点が常にほしい。「主人公である」という意味は、それぞれの人生を自分で描ける、自己実現を図るということだろうと思うし、そのための条件をどうつくりだすかに言葉として共通するものが必要ではないか。

#### 西脇委員

先ほども出た「違いを共に認めあう社会」を入れて頂きたい。

#### 菅原委員

違いを認めるのも命を大切にすることも、すべて幼児教育からの出発だと思う。子どもを共に育むということもあるが、すべてを含めてやはり教育に委ねられるのではないか。

#### 西岡副部長

それを含む幼児教育ということを入れるのであれば、幼児教育と同時に、大人が学び成長するというフレーズも入れて頂きたい。

#### 繁田委員

健康に関する問題は、「エンパワーメント」を、いい日本語訳があれば挙げたい。

明らかに科学的に害がわかったものから脱出できない社会ではダメだという意味で、それに当たるような無煙社会とか、チャレンジしていく社会というような意味も含めて、「タバコフリー」をキーワードに入れて頂きたい。教育にも健康にも福祉にも全部関わるので、他のものと混ぜてぼやかさないことを望む。

「自尊感情」。「自分の命をそれぞれが大事にできる」ということは、健康の行動にも、学習意欲にもつながるので、入れて頂きたい。

「環境」。行政や地域が環境を提供せずに、市民に対して「おまえらやれ」というのではダメなのだとすることで、「環境整備」これだけは入れてほしい。

#### 田中委員

すこやか部会なので、やはり「楽しむ」とか「喜ぶ」とか、「愛する」或いは「愛でる」でもいいが、「共感する」とか、平易に素直に投影できるような、「あつ、そうやな、楽しいな」とか、「健やかに生きるというのは喜びやね」とか、それが実感できるようなキーワードもあっていい。

#### 荒牧委員

「豊かな心」という言葉が私は好きなので、入れて頂きたい。

## 西岡副部長

「子どもを共に育む」も落とせない。

## 竹下委員

豊かさを実感できなかったらいけないので、「豊かさの実感」ということが必要だ。

## 繁田委員

「ノーマライゼーション」とか「インクルーシブ」とかも大事な言葉ではないか。お互いにいろいろな人が理解できるという意味で「共感」も大事だ。

## 竹下委員

「ノーマライゼーション」「インクルーシブ」など、日本語にせずそのままでもいい。

## 繁田委員

「タバコフリー」もそうで、広まればついてくる。

## 竹下委員

新しい概念が市民に定着することが、市民の意識を変えていく。ノーマライゼーション、インクルーシブ、ユニバーサルなど、定着すれば外来語という日本語になる。どんどん使ってほしい。

## 繁田委員

行政がタバコ対策を嫌がるのは、禁煙という言葉がマスコミが使って、禁止するような嫌なイメージが先行していったからだ。禁煙という言葉は英語にはない。クイットスモーキングとかタバコフリーだ。「タバコフリー」は健康を大事にする社会として入れてもらおうと、トピックとしてもいい。

## 竹下委員

「差別のない社会」はすべての問題に共通する大きな目標だ。

## 長屋委員

これらを実践する1つの単位として「地域」という言葉が出てきた。また、「思いやる心」、「思いやり」が大切だ。

## 西岡副部長

山折委員が死生観ということもおっしゃっていた。あの発言をどのような形でキーワー

ドとして入れられるか検討してもらいたい。

#### 繁田委員

食も大事ではないか。食べて、寝て、生きているのが人間だ。

#### 田中委員

イタリア人は「マンジャーレ、カンターレ、アモーレ（食べること、歌うこと、愛すること）」というが、言い得て妙だ。そういうキーワードがあれば。

#### 竹下委員

豊かさの面でいっても、食べることは絶対に大事だ。単に満腹になるという豊かではない。食の文化というか。

#### 西岡副部長

大変有意義な議論をして頂けた。また後ほど事務局に意見をお寄せいただけたらと思う。

### 3 その他

#### 事務局（大田京都創生推進部長）

活発なご議論ありがとうございました。本日頂いたご意見，それから追加で頂くご意見は来週の早い時期にぜひ提出をお願いしたい。ご意見を踏まえて事務局で修正した分野別方針第1次案を正副部長に確認頂き，来月の12日に予定する第4回融合委員会に提出する。融合委員会で，未来像，重点戦略等々と合わせて確認頂き，第1次案として印刷・公表して，1回目のパブリックコメントを5月中に始めたいと考えている。そのパブリックコメントが終わったあとに，市民の方からの意見を踏まえ，また今回議論できなかった政策を実現する施策等について議論を始めて頂く部会を6月に開催する。時期については皆様のご予定を伺い，追って連絡を差し上げる。

#### 西岡副部長

今回の結果を反映したものは，森部長と私に一任して頂く。わからない点などがあれば，委員の皆様に専門の分野で相談させて頂く。

### 4 閉会